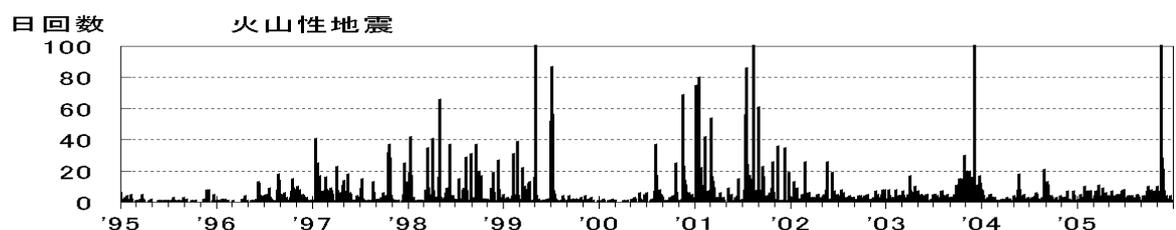
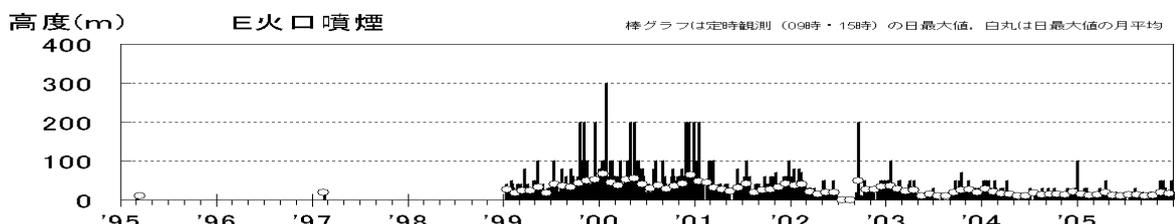
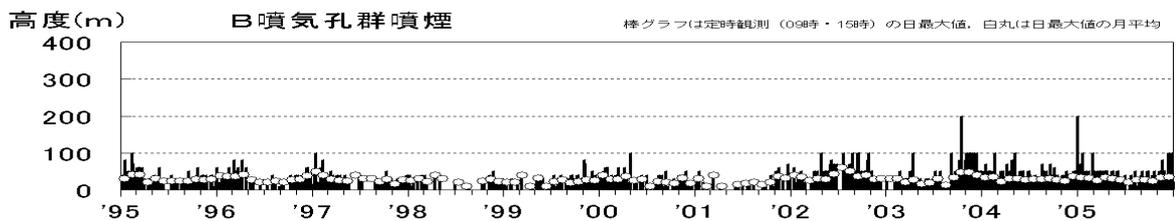
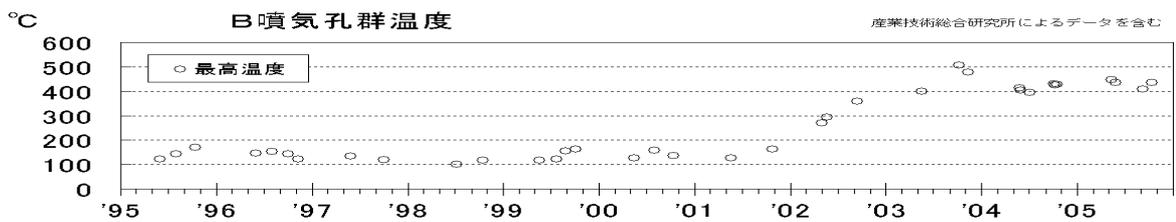
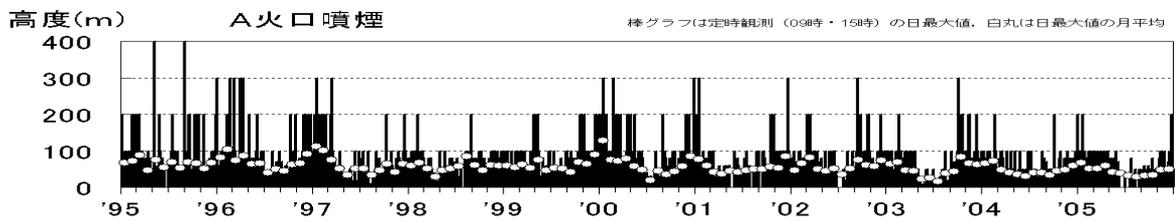
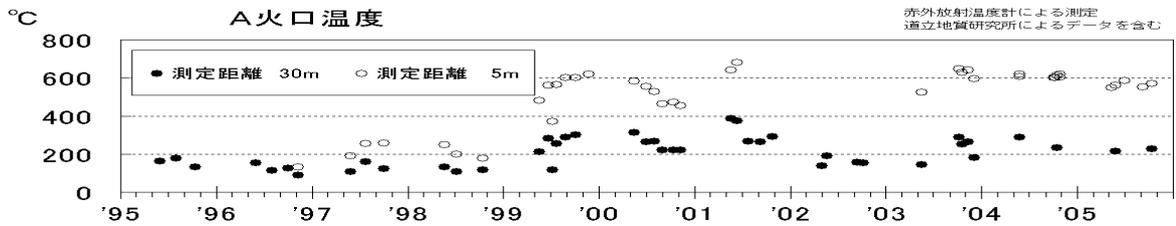


# 樽前山

## 1 概況

A火口及びB噴気孔群の噴煙の状況に変化はみられていないことから、これらの火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定されます。火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2005年12月31日)

2 噴煙の状況

各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。

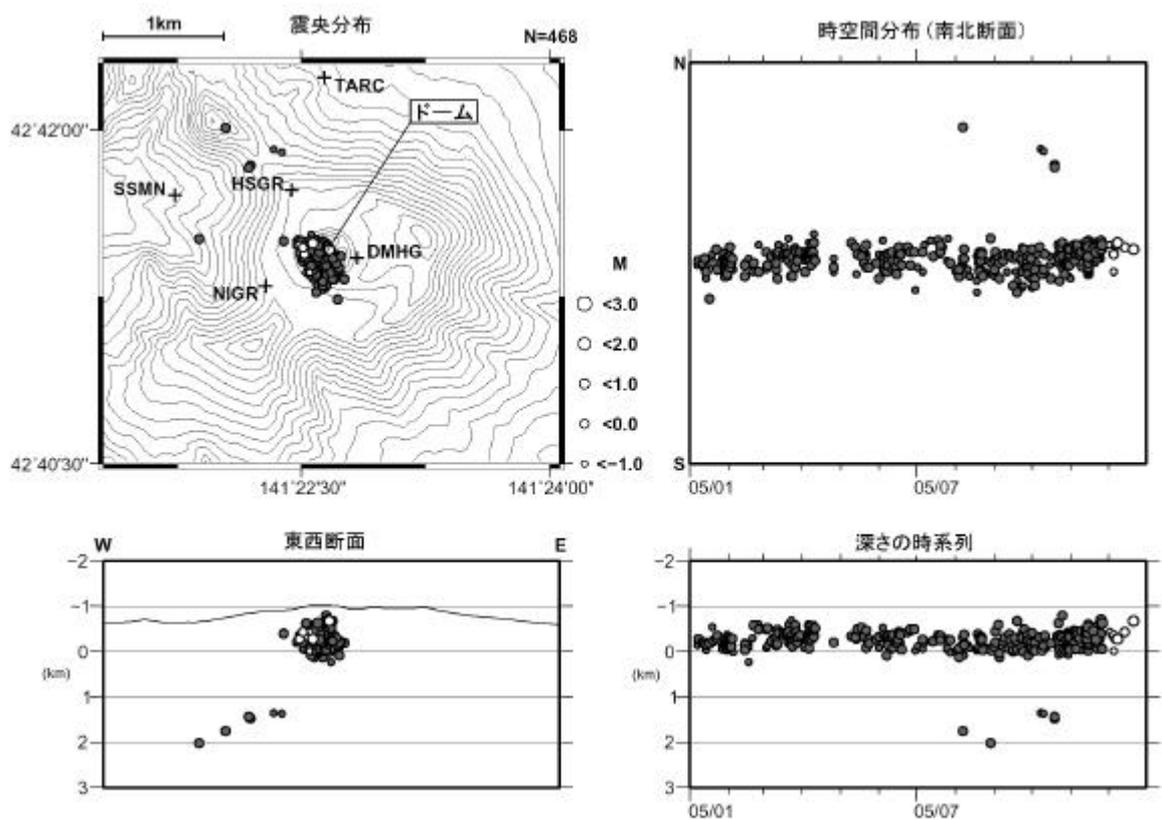
3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~4回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原浅部に集中していました。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(C点)

2005年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	55	59	77	62	46	75	33	46	50	96	349	38
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図(丸印：震源、+印：地震観測点)

印は今期間(2005年12月1日~31日)に求めた震源を示しています(7個)

印はは前期間までの11ヶ月間(2005年1月1日~2005年11月30日)に求めた震源を示しています(461個)

震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中し、ドームの北西及び西約1.5km付近のやや深いところ(海面下約2km前後)にも分布が見られます。今期間に求めた震源は、山頂ドーム直下の海面付近に集中しています。

震源分布図の説明

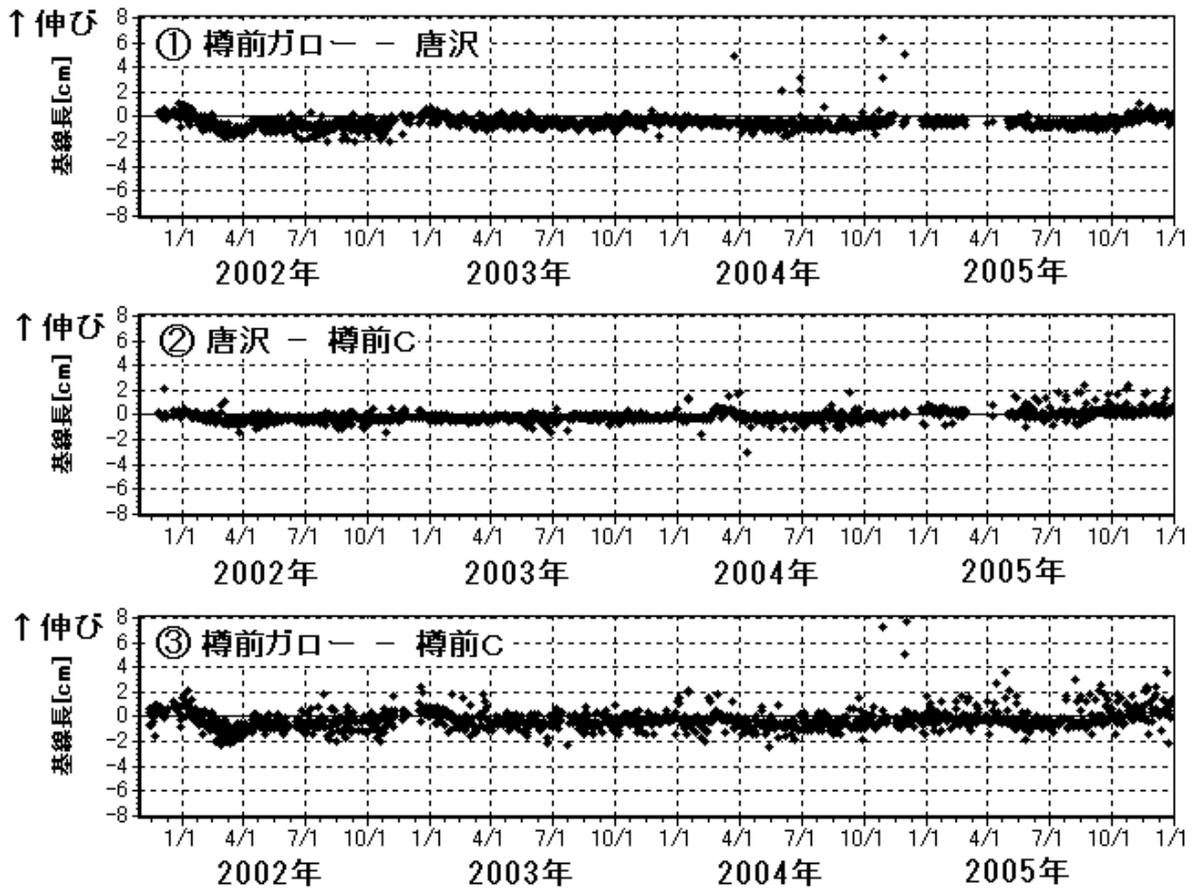
東西断面 震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

時空間分布 震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

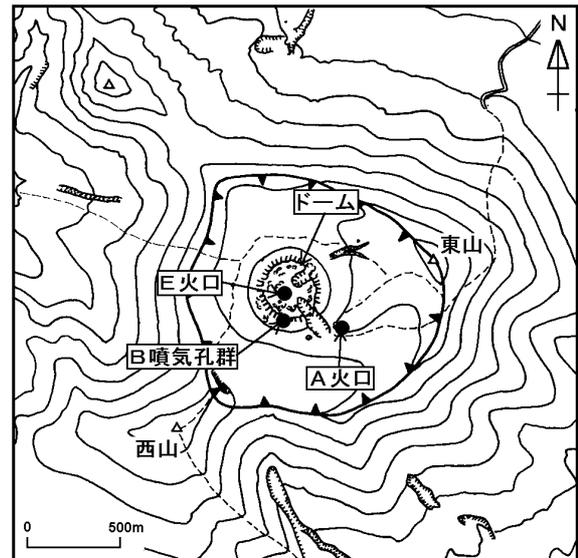
深さの時系列 時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年11月14日~2005年12月31日)



樽前山山頂火山口原図